

2022年2月17日航空分野の2050年カーボンニュートラルに向けた取組みに関するセミナー

～SAF（持続可能な航空燃料）を制するものは世界を制す～

柏木理事長補佐 閉会挨拶

本日、日本財団のご支援のもと、「空の脱炭素」、SAFをテーマとするこのセミナーを開催させていただきましたところ、誠に多くの皆様に長時間、最後までご参加、ご視聴いただきまして、ありがとうございます。

本日のテーマである航空分野のカーボンニュートラル、持続可能な航空燃料 SAF の利用促進は、航空業界だけの課題ではなく、日本の未来を左右する、喫緊の取組みを要する課題であり、同時に大変複雑な課題であります。

高村先生には、この複雑かつ重要な課題について、最近のかつてない急速な変化の潮流、関係者の連携の重要性を含め大所高所から俯瞰する分かりやすい基調講演をいただき、ありがとうございました。

国土交通省航空局の大塚参事官からは、国としての取組みの方向性について、官民協議会の設置や航空法の改正の方向性も含めご紹介いただき、また、日本航空の中川調達本部長からは、ANAも含めた日本の航空事業者が共通して有している現場の強い危機感を端的にご紹介いただき、その後の質疑も交え、理解を深めることができました。感謝申し上げます。

運輸総合研究所では、この複雑な課題について、日本財団の支援のもと幅広い関係者の参画を得て委員会を設置し、課題の全体像について分析整理、検討を進めてまいりました。本日は、その成果の一部について、SAFに焦点を当てて松坂研究員から説明をさせていただきましたが、この調査研究にご協力をいただいております石油産業をはじめとする関連産業界の皆様、国土交通省、経

済産業省・資源エネルギー庁等幅広い関係省庁の皆様、学識経験者の皆様の多大な協力にもこの場をお借りして感謝申し上げます。

本日のお話のなかで、サプライチェーンからの排出量、SCOPE3 といったキーワードも出てきました。

運輸総合研究所は、気候変動対策を重要テーマとして掲げ、調査研究に取り組んでいますが、その中で、調査研究をしその成果を対外発信するだけでなく、私ども自身が研究所の活動を通じて排出している CO2 についても、責任を持って削減していかなければならないと思っております。既に航空各社により、航空利用者に対して排出削減の機会を提供するカーボンオフセットプログラムが設定されており、また、本日説明があったように SAF に関するプログラムも登場しつつあります。私どもとしましては、サプライチェーンの視点、航空利用者の立場から、まずは所員の出張時の排出削減に取り組むべく、こうした制度を利用することをルール化し、この4月から実行していく等、自らの足下の取組みも進めることにしました。

本日のこのセミナーが、こうした航空利用者の協力を含め、SAF の導入促進、日本における航空脱炭素の取組みの機運の盛り上がり一つの節目となり、今後のより多くの関係者の連携による継続的な取組みにつながることを願っております。

最後に、皆様にいつもお願いでございます。この後アンケートを送信させていただきますので、本日の内容や進め方、今後取り上げるべき課題など、お感じになっていることを是非率直にお聞かせいただきますようお願いいたします。皆様の貴重なご意見を踏まえて今後の業務を進めて参りますのでよろしく申し上げます。

皆様の本日のご参加に感謝し、また、こうした私どもの活動全般を支えていただいている日本財団に重ねて感謝の意を表しまして、結びの挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。